

平成29年度 スポーツ庁委託事業
「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
報告書



Nippon Sport Science University
Center for Olympic and Paralympic Empowerment

平成30年3月 日本体育大学

本報告書は、スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」として、日本体育大学が実施した平成29年度の事業成果を取りまとめたものです。

したがって、本書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要となります。

はじめに

平成28年度から始まった本事業は今年度で2年目を迎えました。本年度の事業計画は昨年度に引き続き、次の2点を事業の趣旨として展開されました。①オリンピック・パラリンピックそのものについての学びを全国的に普及し、ムーブメントを醸成するための活動を行う。②オリンピック・パラリンピックを通じた学びを国民的レベルで深めるための支援活動を行う。今年度は昨年度の石川県、高知県、長崎県に新たに千葉県、千葉市、兵庫県、大阪市が地域拠点として加わり、日本体育大学と連携しながら事業を進めて参りました。

本事業ではオリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツの価値への理解を深め、フェアプレイ意識の涵養、国際異文化理解などの教育的価値の実現を目的としています。この目的は、「人間の尊厳を基礎として平和な社会の推進を目指す」オリンピズムと「より良い社会を作るための社会変革」を起こそうとするパラリンピックムーブメントを理念としています。今年度はこのような理念、目的のもとに、地域拠点と連携して教育現場を中心にして展開してきました。そのまとめとして、2月に全国フォーラムを開催して成果の一端を公表しました。

本報告書の取り組みが2020年東京大会に向けて、オリンピズムとパラリンピックムーブメントのさらなる展開に繋がることを願っております。

平成30年3月

スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

日本体育大学事業統括 学長 具志堅幸司

目次

✚ 本事業の概要	
1. 趣旨	1
2. 目的	1
3. 推進体制	2
4. 実施スケジュール	2
✚ オリピック・パラリンピック教育地域拠点への支援	
1. 全国セミナー	3
2. 地域セミナー	6
(1) 千葉県	6
(2) 千葉市	8
(3) 石川県	9
(4) 大阪市	10
(5) 兵庫県	11
(6) 高知県	12
(7) 長崎県	13
3. 全国ワークショップ	14
4. 円滑なオリピック・パラリンピック教育のための支援	16
✚ オリピック・パラリンピック教育全国フォーラム	21
✚ その他の取り組み	
1. オリピック・パラリンピックの理念	26
2. フェアプレイ	26
3. パラリンピック教育	27
4. 国際相互理解教育	28
✚ 資料	29

本事業の概要

1. 趣旨

2020年東京大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（平成27年11月27日閣議決定）において、政府は「大会開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育の推進によるスポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する」ことを決定している。このため、この方針の実現に向けて、全国各地においてオリンピック・パラリンピック教育を推進する。

2. 目的

本事業は、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の全国的な機運醸成をはかる目的で行われる。特にオリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツの価値への理解を深め、フェアプレイ意識の涵養、国際・異文化理解などの教育的価値の実現を目指して行われる。

具体的な内容は以下の4点である。

(1) オリンピック・パラリンピック教育地域拠点への支援

スポーツ庁が別途、道府県・政令指定都市に委託するオリンピック・パラリンピック教育地域拠点（以下、地域拠点とする）に対して、オリンピック・パラリンピック教育のノウハウ・教材を伝達・共有するほか、地域拠点からの質問等に対応し、必要に応じて地域拠点等での指導助言を行うなどの支援を実施する。事前研修会として、各地域拠点の実践に際してはコーディネーターを対象とした「全国セミナー」を開催し、また、各推進校の実践に際しては推進校の教員を対象とした「地域セミナー」を開催し、本事業の概要説明やオリンピック・パラリンピック教育に関する具体的な実践例・教材の共有を行った。さらに年度末には、地域拠点のコーディネーターを対象とした「全国ワークショップ」を開催し、地域拠点での成果と課題を共有するとともに、次年度の効果的な事業運営に向けた情報交換を行った。

(2) オリンピック・パラリンピック教育全国フォーラムの開催

オリンピック・パラリンピック教育について地域住民などに広く知らせるとともに、東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成を図ることを目的として開催した。開催に際しては、内容、講師、広報等を検討して進めた。

(3) オリンピック・パラリンピック教育全国コンソーシアムへの参加

全国中核拠点における事業実施状況の報告、地域拠点の実践に関する支援策の検討のために開催された全国中核拠点会議に出席した。関係団体を含めたコンソ

ーシウムへの参画により、オリンピック・パラリンピック教育に関する情報の収集と共有を行い、各地域拠点への支援に役立てた。

(4) 全国への情報発信

昨年度に構築した本事業に関するホームページを充実させ、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの成果や情報を全国へ発信した。また、報告書を作成することにより事業を検証し、成果をまとめた。

3. 推進体制

本事業の推進は、日本体育大学を拠点に、筑波大学、早稲田大学、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会、日本財団パラリンピックサポートセンター、東京都教育庁等の関係団体および地域拠点と協力体制を構築し、本事業を展開した。

4. 実施スケジュール

以下に示す実施スケジュールに基づいて本事業を実施した。

	実施概要
4月	日本体育大学内の推進体制の整備 ホームページにおける成果・情報の発信(～3月) 教材作成(～3月):オリンピック憲章、フェアプレイ、パラリンピック教育 第1回全国中核拠点会議(14日)
5月	地域拠点へのオリンピック・パラリンピック教育の支援(～3月) 第1回全国セミナー(8日)
6月	地域セミナー:千葉県第1回(13日)、兵庫県(16日)、石川県(29日) 第2回全国中核拠点会議(22日)
7月	第2回全国セミナー(6日)
8月	地域セミナー:千葉県第2回(8日)、千葉市(17日)、大阪市(29日)
9月	地域セミナー:長崎県(14日) 第1回オリンピック・パラリンピック教育アンケート調査
10月	第3回全国中核拠点会議(16日) 地域セミナー:高知県第1回(31日)
11月	地域セミナー:高知県第2回(17日)
12月	第4回全国中核拠点会議(22日) 第2回オリンピック・パラリンピック教育アンケート調査(～1月)
1月	
2月	全国フォーラム(10日)
3月	全国ワークショップ(5日)

オリンピック・パラリンピック教育地域拠点への支援

1. 全国セミナー

本事業開始にあたり、事業の概要説明や、オリンピック・パラリンピック教育に関する具体的な実践例・教材の共有、関係団体の事業内容紹介を通して、各地域における効果的な事業展開に向けた情報交換を目的として実施した。本セミナーは地域拠点のコーディネーターを対象に開催し、同内容にて2回行った。以下に、全国セミナーの概要について報告する。

○開催概要

日 時：第1回：平成29年5月8日（月）14時00分～17時00分
第2回：平成29年7月6日（木）14時00分～17時15分

会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎

参 加 者：第1回57名、第2回43名

プログラム：

【第1回】

14：00 開会挨拶

勝又正秀（スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 課長）

14：05 全体概要説明

真田久（筑波大学体育系 教授）

14：35 各学校段階におけるオリンピック・パラリンピック教育（事例紹介）

岡田悠佑（早稲田大学 研究助手）

秋和真澄（日本体育大学 特別研究員）

宮崎明世（筑波大学体育系 准教授）

15：05 教材紹介

宮崎明世（筑波大学体育系 准教授）

15：35 関係団体事業について

小林美保（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会企画財務局企画部企画課 課長（兼）アクション&レガシー部文化・教育担当課 課長）

荒川元邦（東京都教育庁指導部オリンピック・パラリンピック教育推進担当課 課長）

羽生雄一郎（内閣官房オリパラ室 参事官）

山本恵理（日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部 プロジェクトリーダー）

16：05 休憩

16：15 全国中核拠点（担当大学）と地域拠点との打合せ

17：00 閉会

【第2回】

- 14:00 開会挨拶**
勝又正秀（スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 課長）
- 14:05 全体概要説明**
真田久（筑波大学体育系 教授）
- 14:25 オリンピック・パラリンピック教育の推進に関する情報提供**
岡田悠佑（早稲田大学 研究助手）
秋和真澄（日本体育大学 特別研究員）
宮崎明世（筑波大学体育系 准教授）
- 15:10 教材紹介**
宮崎明世（筑波大学体育系 准教授）
- 15:25 関係団体事業について**
勝本剛之（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会アクション&レガシー課文化・教育担当第一チーム 主事）
荒川元邦（東京都教育庁指導部オリンピック・パラリンピック教育推進担当課 課長）
金子昌弘（内閣官房オリパラ局 参事官補佐）
山本恵理（日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部 プロジェクトリーダー）
- 16:10 休憩**
- 16:15 全国中核拠点（担当大学）と地域拠点との打合せ**
- 17:15 閉会**

○内容

開会にあたり、スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課の勝又氏より挨拶があり、続く全体概要説明では筑波大学の真田氏より本事業の趣旨や目的、本事業におけるオリンピック・パラリンピック教育について説明があった。

続いて、各地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進に関する情報提供では、各全国中核拠点大学より昨年度の実践例を紹介した。早稲田大学からは岡田氏より、地域セミナーの支援を中心に事例の紹介があった。日本体育大学からは秋和より、オリンピック・パラリンピアン招聘による授業事例について紹介した。筑波大学からは宮崎氏より、オリンピック・パラリンピック教育のテーマと展開法、オリンピック・パラリンピアン招聘以外の実践事例について紹介があった。全国中核拠点大学の昨年度事例より、体育だけではなく、総合的な学習の時間や道徳等様々な教科で活用ができることを例示した。教材紹介では筑波大学の宮崎氏より、スポーツ庁指導参考資料の「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料」、東京都教育委員会の「オリンピック・パラリンピック学習読本」、IOC教材の「Olympic Values Education Programme」、IPC公認教材の「I'm POSSIBLE」について紹介があった。

さらに、関係団体事業の紹介では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会より「東京2020教育プログラム」について、東京都教育庁より「平成28年度オリンピック・パラリンピック教育実施報告」、内閣官房オリパラ事務局より「ホストタウン」について、日本財団パラリンピックサポートセンターより「あすチャレ！School」について説明があり、関係団体事業とも関連させながら各地域拠点でのオリンピック・パラリンピック教育を進めていただくよう紹介があった。

最後に、担当大学毎に分かれて全国中核拠点と地域拠点との打合せを行った。日本体育大学では、オリンピック・パラリンピック教育計画内容、学校での進め方、東京都の実践事例についての紹介と共有を全体に向けて行った後、地域拠点毎に地域拠点の事業計画や不明点等の確認を行った。第2回では、2回目の参加となる地域拠点も複数あったことから、それぞれの実情について意見交換を行い、情報共有する時間を設けた。

本事業の開始にあたり様々な事例や事業内容が共有され、オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて協力体制を築いていくことが確認できた有意義なセミナーとなった。



開会挨拶 勝又氏



実践例紹介の様子



地域拠点との打合せの様子

2. 地域セミナー

(1) 千葉県地域セミナー

【第1回】

○開催概要

日 時：平成29年6月13日（火）14時00分～16時00分

会 場：千葉県文書館

参 加 者：57名

プログラム：

14：00 開会

14：05 平成29年度スポーツ庁「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」とオリンピック・パラリンピック教育について
石川直（日本体育大学 特別研究員）

14：25 千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針
篠木賢正（千葉県教育庁企画管理部教育政策課教育立県推進室 室長）

14：45 オリンピック・パラリンピック教育の実践例等

14：55 ワークショップ①：事業計画書について

15：05 ワークショップ②：簡易版年間計画の作成

15：55 閉会

○内容

本セミナーには全推進校担当者が出席し、再委託先となる市町村教育委員会の参加もみられた。事業全体概要の紹介の他、千葉県の事業概要についても説明があり、実践例の紹介や年間計画書をワークショップ形式で作成するなど、活発な意見交換を行った。キャンプ誘致が決定している地域ではその国の言語学習を取り入れるなど、ホストタウン構想との連動が進んでいることや、千葉県のオリンピック・パラリンピック教育についての報道を見た企業や大学から直接連絡があり、体験講座等を実施するなど、各方面からの動きがあることも報告された。

組織委員会の東京2020教育プログラムの認証を推進校30校が受け、のぼりとポスターが配布された。

【第2回】

○開催概要

日 時：平成29年8月8日（火）9時30分～16時30分

会 場：千葉県総合スポーツセンター

参 加 者：42名

プログラム：

- 9：30 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けての千葉県の取組について
進藤周介（千葉県知事部局総合企画部東京オリンピック・パラリンピック推進課 主査）
- 10：00 県内開催を中心としたオリンピック・パラリンピック種目について
①「フェンシング」
瀬原祥（千葉県立千葉北高等学校 教諭）
内久根直樹（千葉県立東葛飾中学校・高等学校 教諭）
- 13：00 県内開催を中心としたオリンピック・パラリンピック種目について
②「ゴールボール」
池田貴（日本ゴールボール協会 理事）
渡邊貴裕（順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授）
古川文彦（千葉県立東金特別支援学校 教諭）
- 15：15 オリンピック・パラリンピック教育の推進について
渡繁伸（千葉県教育庁企画管理部教育政策課教育立県推進室企画班副班主幹）
国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を使った授業展開について
マセソン美季（日本財団パラリンピックサポートセンター）
- 16：30 閉会

○内容

2020年に向けて県としての取組が伝えられ、参加者はオリンピック種目の「フェンシング」、パラリンピック種目の「ゴールボール」を、それぞれ指導者のリードで体験した。体験後にオリンピック・パラリンピック教育が県内でどのように進められているか説明があり、その後 IPC 公認パラリンピック教育教材「I'm POSSIBLE」の概要説明を行った。体験と説明をセットにしたことで、パラスポーツやパラ教育についてとても関心が高まっている様子で、授業での展開がイメージしやすくなったようであった。



セミナーの様子

(2) 千葉市地域セミナー

○開催概要

日 時：平成29年8月17日（木）9時30分～11時55分

会 場：ホテル白砂

参 加 者：179名

プログラム：

9：30 開会

9：40 オリンピック・パラリンピック教育講演会 第一部

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の全体概要

佐藤洋（日本体育大学 特別研究員）

千葉市の取組について

由利知子（千葉市教育委員会学校教育部保健体育課学校体育班）

10：15 オリンピック・パラリンピック教育講演会 第二部

パラリンピアンによる講演及び競技体験

「私にとってのパラスポーツ～ウィルチェアラグビーを通して～」

官野一彦（千葉市教育委員会スポーツ振興課スポーツ振興班）

11：55 閉会

○内容

本セミナーは、千葉市体育指導者合同合宿講習会の第1日目に実施した。講演会第一部では、事業の全体概要及び千葉市のオリンピック・パラリンピック教育の方向性について由利氏より話があり、千葉市におけるオリンピック・パラリンピック教育の方針を明確に打ち出した。

講演会第二部では、ウィルチェアラグビーのパラリンピアンである官野氏による講演と、実際の授業で車椅子を使用した場合を想定した競技体験を行った。官野氏の講演では、自身の体験とその経験を参加した教員へ伝えた。また参加した教員は実際に車椅子を操る難しさを経験し、体験を生かしてオリンピック・パラリンピック教育に臨めるようになった。



講義と競技体験の様子

(3) 石川県地域セミナー

○開催概要

日 時：平成29年6月29日（木）15時30分～16時40分

会 場：石川県庁行政庁舎

参 加 者：13名

プログラム：

15：30 開会挨拶

近岡守（石川県教育委員会事務局保健体育課 課長）

15：35 事業概要説明

木村哲也（石川県教育委員会事務局保健体育課学校体育グループ
指導主事）

16：00 講演「オリンピック・パラリンピック教育とは」

大森重宣（金沢星稜大学人間科学部 教授）

16：30 質疑応答

16：40 閉会

○内容

開会にあたり、石川県教育委員会事務局の近岡氏より挨拶があり、続く事業概要説明では、コーディネーターより教育実践について、実施単位時間数は指定しないことや教育推進実践事例発表会の日程が伝えられ、事例発表会に向けて各取組みの様子を写真やビデオにて保存いただきたい旨の説明があった。さらに、オリンピック・パラリンピック教育の資料や東京都の実践事例を紹介し、推進校での円滑な事業推進に向けた情報共有を行った。その後、金沢星稜大学の森氏より、スポーツの価値とオリンピック・パラリンピック教育の意義について、講演があった。

最後に各推進校担当者より感想を述べ、「指導の仕方や児童生徒の自己肯定感を高めようとする良い機会になった」、「オリンピック・パラリンピック教育が成功につながるように学校全体で良い雰囲気を持ち上げていきたい」という前向きな感想が多くでた。石川県での事業の開始にあたり事業内容や事例を共有し、オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた充実したセミナーとなった。



セミナーの様子

(4) 大阪市地域セミナー

○開催概要

日 時：平成29年8月29日（火）15時00分～17時00分

会 場：大阪市教育センター

参 加 者：16名

プログラム：

15：00 開会挨拶

盛岡栄市（大阪市教育委員会事務局指導部人権・国際理解教育担当
首席指導主事）

関根正美（日本体育大学体育学部 教授）

15：10 平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国 展開事業」について

関根正美（日本体育大学体育学部 教授）

祖山桜（日本体育大学 特別研究員）

16：05 大阪市の取組について

北川延尚（大阪市教育委員会事務局指導部中学校教育担当 指導主事）

梶実裕（大阪市経済戦略局スポーツ部スポーツ課担当 係長）

16：30 質疑応答

16：40 校種別打合せ

16：55 閉会

○内容

大阪市推進校3校の担当者及び管理職の方が出席し、全国セミナーの内容の伝達及びオリンピック・パラリンピック教育実践に向けた事前説明を行った。ホストタウンの取組では、経済戦略局からホストタウン相手国であるオーストラリアの女子車椅子バスケットボールチームの選手と、推進校3校の生徒の交流会を実施する予定であることや、体験ありきではなく、あくまで文化の交流を目的としているとの説明があった。また、事前学習で参考になるように、オーストラリアについて学ぶことができるデジタル教材や、文化、生活様式等について掲載されている「在日オーストラリア大使館」のWebサイトを紹介した。その後質疑応答を行い、最後に校種別に今年度の実施計画について打合せを実施した。



事業概要の説明の様子

(5) 兵庫県地域セミナー

○開催概要

日 時：平成29年6月16日（金）15時30分～16時50分

会 場：姫路市立総合教育センター

参 加 者：11名

プログラム：

15：30 開会

15：35 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の全体概要及び全国セミナーの内容について

土井一弥（兵庫県教育委員会事務局体育保健課学校体育班 主任指導主事）

15：55 日本体育大学の取組方針・支援とアンケート調査概要について

祖山桜（日本体育大学 特別研究員）

16：05 兵庫県の取組・オリパラ教育事例紹介・年間スケジュールについて

土井一弥（兵庫県教育委員会事務局体育保健課学校体育班 主任指導主事）

16：35 質疑応答

16：50 閉会

○内容

兵庫県の推進校3校中2校の担当者及び管理職の方を対象に、全国セミナーの内容伝達及びオリンピック・パラリンピック教育実践に向けた事前説明会を行った。事業の全体概要、教材の紹介、東京2020教育プログラムの認証についての説明の後、本学より取組方針と実施可能な支援、アンケート調査について説明し、兵庫県と本学の支援関係を確認した。次に兵庫県の推進校の取組について説明があり、担当者の教員が授業を実施する際に参考となるよう、「オリンピック・パラリンピック教育事例集」として本学が提供した、小学校の指導案や年間指導計画、また東京都の実践事例が掲載されている東京都教育委員会のホームページを紹介した。その後事業の年間スケジュールについて確認を行い、年度末の報告会に向けて各学校の事業計画書や報告書の提出について説明を行った。



セミナーの様子

(6) 高知県地域セミナー

○開催概要

日 時：第1回：平成29年10月31日（火）13時30分～14時30分
第2回：平成29年11月17日（金）15時30分～16時45分

会 場：第1回：高知県立中芸高等学校、第2回：高知県庁西庁舎

参 加 者：第1回5名、第2回5名

プログラム：

15：30 開会

本事業の概要説明

石川直（日本体育大学 特別研究員）

15：50 高知県の取り組みについて

山崎貴士（高知県文化生活スポーツ部スポーツ課 主任）

16：00 推進校での実施計画

各推進校担当者

16：20 IPC 公認パラリンピック教育教材 I'mPOSSIBLE の説明

石川直（日本体育大学 特別研究員）

16：30 質疑応答

16：45 閉会

○内容

高知県の推進校4校の担当教員に対して、全国セミナーの情報共有と、オリパラ教育の概要説明、さらに高知県の取り組みとの関連についての説明を行った。ゲストティーチャーによる体験授業の実施日程がすでに決定していたため、事前事後学習の展開について具体的な質疑を行った。特に事後学習の立案に苦慮していたため、IPC 公認パラリンピック教育教材 I'mPOSSIBLE の紹介は、イメージを広げるために効果的であった。高知県の取り組みとの関連についても、意識した話し合いとなった。



セミナーの様子

(7) 長崎県地域セミナー

○開催概要

日 時：平成29年9月14日（木） 11時00分～15時00分

会 場：出島交流会館

参 加 者：21名

プログラム：

11:00 開会挨拶

宮田幸治（長崎県教育庁体育保健課学校体育班 参事）

11:10 【説明】事業内容及び報告等について

佐藤昇（長崎県教育庁体育保健課学校体育班 指導主事）

秋和真澄（日本体育大学 特別研究員）

12:00 休憩

13:00 【講義】「オリンピック・パラリンピック教育について」

白旗和也（日本体育大学体育学部 教授）

14:40 質疑応答

15:00 閉会

○内容

本事業全体概要と長崎県の4つの事業内容、事務事項について説明があった。長崎県事業の1つである「授業実践」では、「オリンピック・パラリンピックによる講演・交流体験」と関連させて事前・事後学習を行うなど、各教科や特別活動、道徳との関連を図った授業実践を2回は実施していただくよう説明があった。また「オリンピック・パラリンピック教育推進協力員による運動部活動指導」では、オリンピックやスポーツの価値教育、アンチ・ドーピング教育等について研修を受講した者による指導を、推進校の中学校・高等学校6校を対象に年間5回程実施すると伝えた。その他、認証制度によるマーク使用、報告書、アンケートについての説明を行った。その後の講義では本学の白旗氏より、オリンピック・パラリンピック教育の意義と必要性や千代田区立お茶の水小学校の実践事例を紹介した。

長崎県での事業の開始にあたり事業内容や事例が共有され、協力体制を築きながらオリンピック・パラリンピック教育を推進していくことが確認できた有意義なセミナーとなった。



講義の様子

3. 全国ワークショップ

平成29年度スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の成果報告会として、各地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の成果と課題を共有するとともに、次年度の効果的な事業運営に向けた議論を行うことを目的に、地域拠点のコーディネーターを対象に開催した。以下に、全国ワークショップ概要について報告する。

○開催概要

日 時：平成30年3月5日（月）14時00分～17時15分

会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎

参 加 者：63名

プログラム：

14：00 開会挨拶

宮崎明世（筑波大学 准教授）

勝又正秀（スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 課長）

14：05 各大学担当の地域拠点における事業概要および全国フォーラム報告

大林太朗（筑波大学 助教）

佐藤洋（日本体育大学 特別研究員）

岡田悠佑（早稲田大学 研究員）

14：50 パラリンピック教育普及啓発事業報告

岩佐正俊（朝日新聞社メディアビジネス局 次長）

15：05 東京都における事例紹介

小宮山詠美（東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事）

15：20 休憩

15：30 報告会およびグループ討議

(A) 札幌市、岩手県、宮城県、福島県、千葉県（北海道、埼玉県）

(B) 札幌市、福島県、茨城県、千葉県、静岡県（埼玉県、横浜市）

(C) 千葉市、石川県、岐阜県、静岡県、京都市（山梨県、愛知県）

(D) 京都府、大阪市、兵庫県、長崎県（埼玉県、山梨県、滋賀県）

(E) 京都府、広島県、静岡県、長崎県（岡山県、鹿児島県）

16：45 各グループで議論された内容の報告

17：15 閉会挨拶

関根正美（日本体育大学 教授）

○内容

開会にあたり、筑波大学の宮崎氏、スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課の勝又氏より、「平昌大会ではオリンピック・パラリンピック教育の題材になるシーンが多く見られ、日本では東京大会のマスコットが決まり8割近くの高い投票率であっ

た。この盛り上がりをオリンピック・パラリンピック教育の全国展開に繋げるとともに、来年度のオリンピック・パラリンピック教育に生かすことができればいいと思う」と挨拶があった。

ワークショップ前半では、各全国中核拠点、朝日新聞社、東京都教育庁より今年度の事業報告を行った。全国中核拠点の各大学からは、担当地域拠点における取り組みや全国フォーラム報告だけでなく、平昌大会プログラムや韓国オリンピック・パラリンピック教育の調査研究、教材作成など大学独自の取り組みについて報告を行った。朝日新聞社からは、パラリンピック教育普及に関する教員向け研修会と市民向けイベントの概要、アンケート調査結果について報告があり、東京都教育庁からは、東京都のオリンピック・パラリンピック教育の方針と実践例について紹介があった。

ワークショップ後半では、地域拠点によるグループ討議を行った。①推進校におけるオリンピック・パラリンピック教育、②地域セミナーと地域ワークショップ、③次年度に向けた課題と展望という3点について情報交換を行い、各拠点での実践例や課題を共有した。グループ討議後には各グループによる発表があり、一過性で終わらせない継続的なオリンピック・パラリンピック教育の実施のために、十分な計画を練るための早期のセミナー実施、既存の学習の中に位置づけるという先生方の意識改善、学校全体での協力体制の整備、周辺学校や地域との連携などが課題として挙げられた。また、次年度はホストタウンを中心に推進校を決定したいという報告もあった。

最後に、日本体育大学の関根氏より、「グループ討議の発表にあったように、一過性のものではないということがキーワードになる。様々な課題をいただいたが、素晴らしい成果に繋がるのではないかという希望が持てるワークショップとなった」と挨拶があり、閉会した。



開会挨拶の様子



グループ討議の様子

4. 円滑なオリンピック・パラリンピック教育のための支援

地域拠点のコーディネーターとの打合せを必要に応じて行い、事業の見通しや現状把握、問題点の抽出、改善案の検討、次年度の方向性などについて情報交換を行った。また、本学教授を講師とした研修会を開催した他、推進校などの視察では、オリンピック・パラリンピアン派遣や事後学習などの実践に関する情報収集に努め、授業実施者や推進校関係者から意見を伺う機会として活用した。さらに、地域ワークショップに参加し、推進校での実践や拠点独自の取り組みについて情報を収集するとともに、他拠点の取り組みについて報告を行った。

(1) 地域拠点推進校数一覧

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
千葉県	14	11	3	2	30
千葉市	7	7	—	—	14
石川県	2	2	2	—	6
大阪市	1	1	1	—	3
兵庫県	1	1	1	—	3
高知県	—	—	3	1	4
長崎県	6	3	3	2	14
計	31	25	13	5	74

(2) オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート調査

地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の効果の検証を目的として、推進校の児童生徒を対象にアンケート調査を実施した。実施したアンケートは本学にて集計を行い、結果を推進校及び各地域拠点に返却した。以下にアンケート調査の概要について報告する。

○調査概要

【調査方法】

質問紙法による（巻末資料）。オリンピック・パラリンピック教育の実施前と実施後の2回アンケート調査を実施し、変化を検討する。

【調査期間】

第1回：平成29年9月～10月

第2回：平成29年12月～平成30年1月

【調査対象】

地域拠点推進校において、オリンピック・パラリンピック教育として実施する授業を受ける小学校4年生以上から高等学校3年生までの児童生徒とする。

【調査対象数】

	第1回(名)	第2回(名)
千葉県	7, 884	7, 501
千葉市	868	851
石川県	682	656
大阪市	198	187
兵庫県	435	430
高知県	380	370
長崎県	1, 869	1, 581
計	12, 316	11, 576

【調査項目】

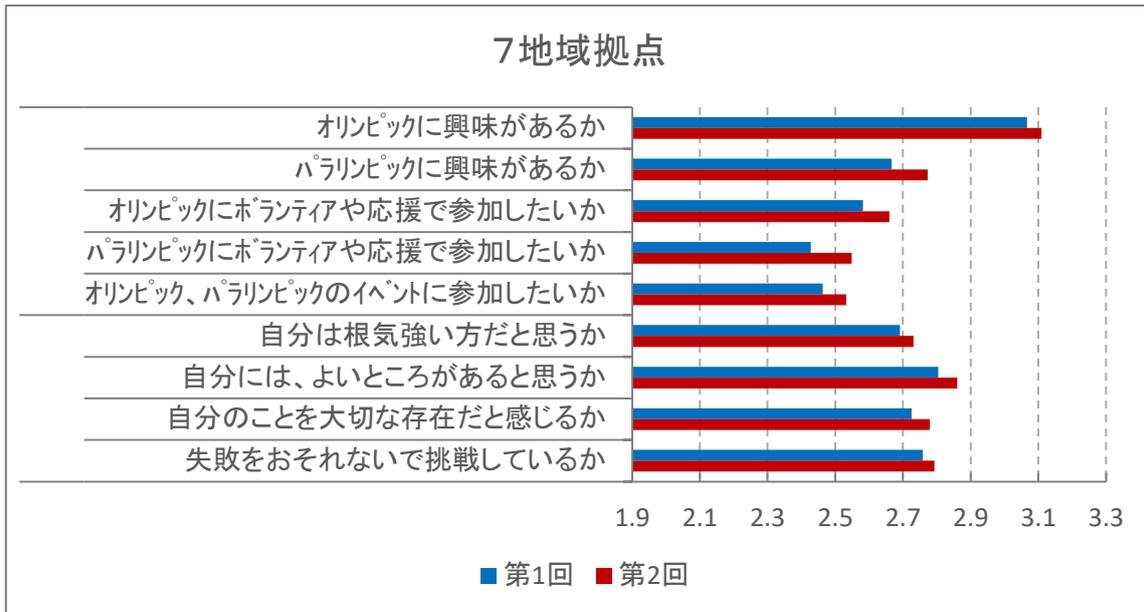
- ・オリンピックとパラリンピックについて
 - ア オリンピックに興味がありますか。
 - イ パラリンピックに興味がありますか。
 - ウ 将来、オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。
 - エ 将来、パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。
 - オ 今後行われるオリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと思いませんか。
(4:とても興味がある 3:興味がある 2:あまり興味がない 1:興味がない)
- ・自分自身のことについて
 - ア 自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思いますか。
 - イ 自分には、よいところがあると思いませんか。
 - ウ 自分のことを大切な存在だと感じていますか。
 - エ 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。
(4:とても思う 3:思う 2:あまり思わない 1:思わない)

【集計方法】

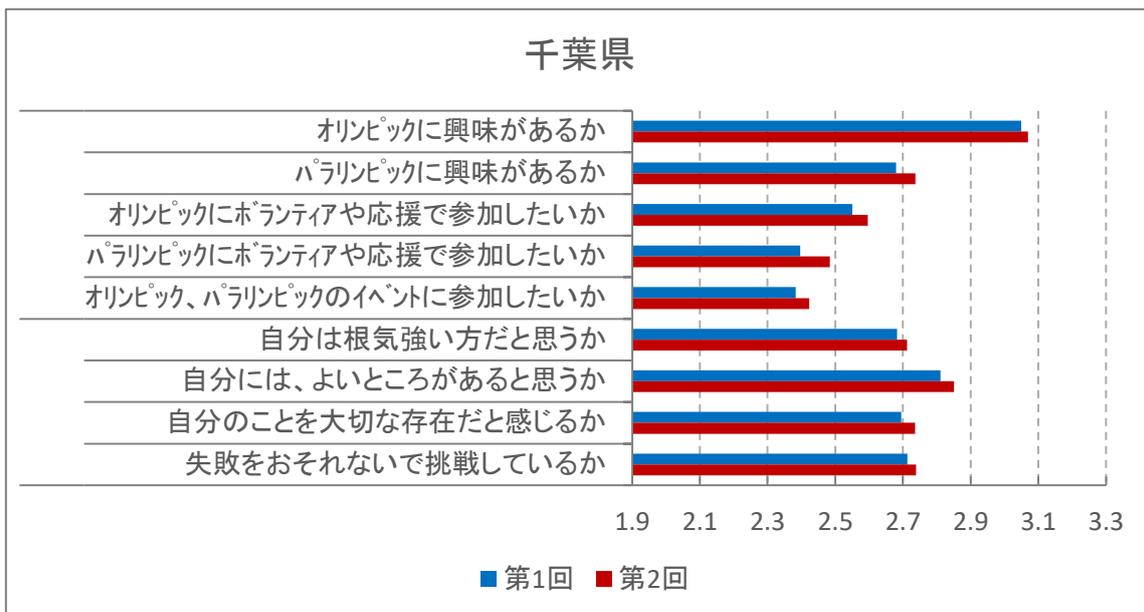
最も否定的な回答を1、最も肯定的な回答を4として数値化し、全回答の平均値を算出した。

○アンケート集計結果

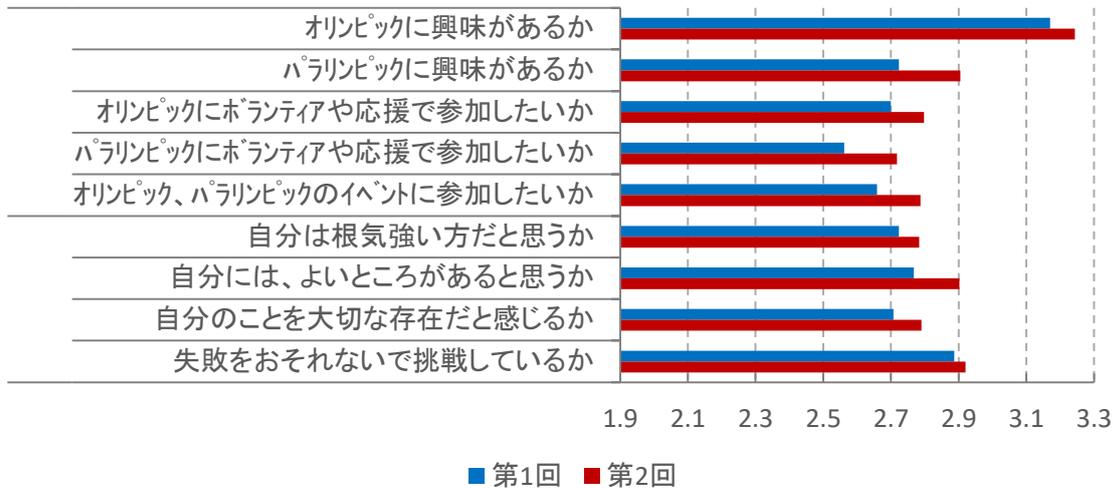
7地域拠点のグラフより、全ての設問において第2回が第1回の値を上回り、「オリンピックに興味があるか」という問いは2回とも高い値を示した。オリンピックとパラリンピックの設問を比較すると、オリンピックの設問がより高い値を示すが、第1回から第2回にかけて値の増加がより大きいのはパラリンピックの設問であった。



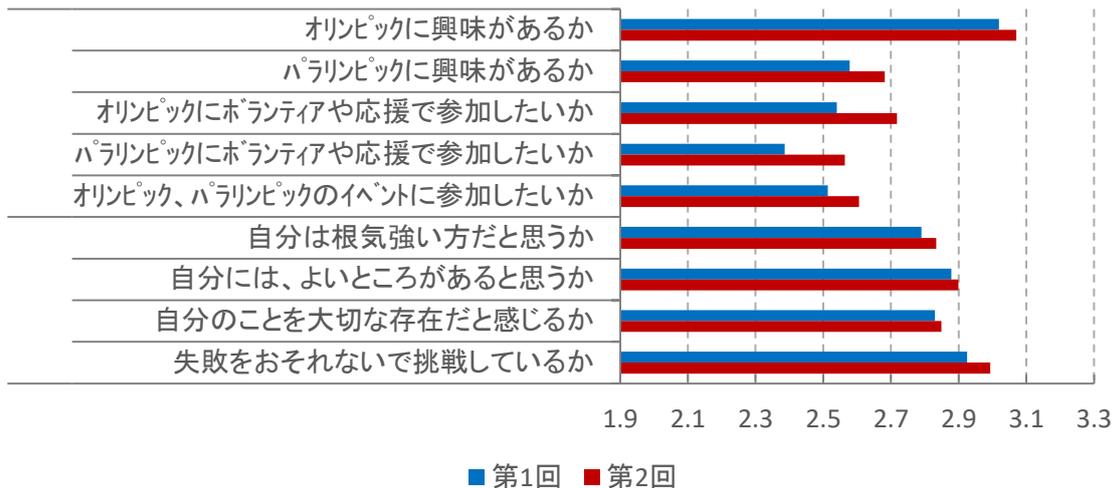
以下に、地域拠点毎のグラフを示す。



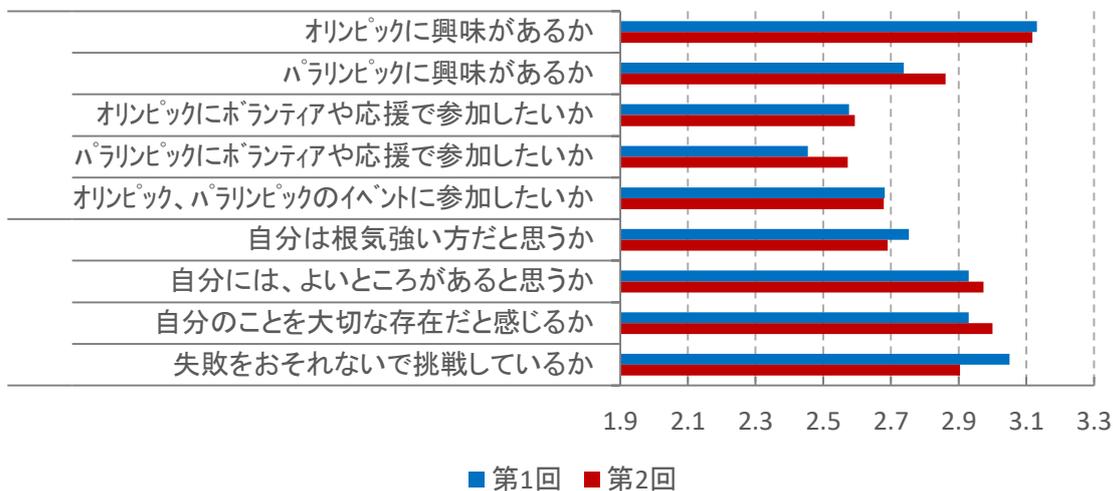
千葉市



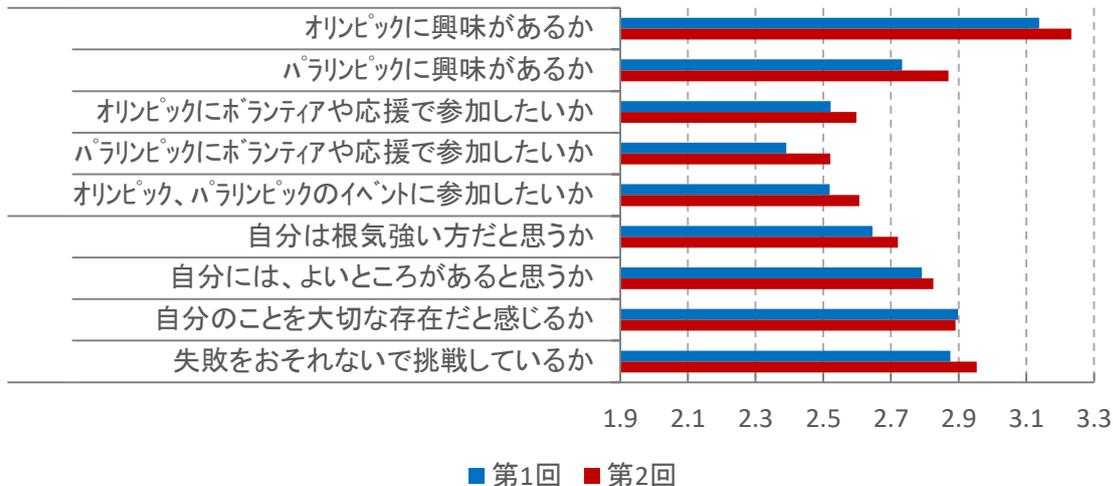
石川県



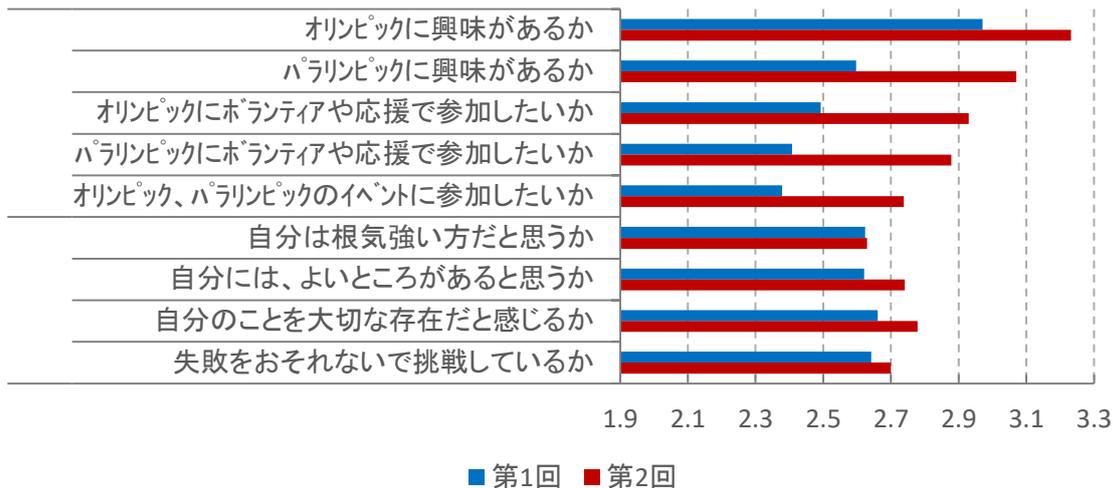
大阪市



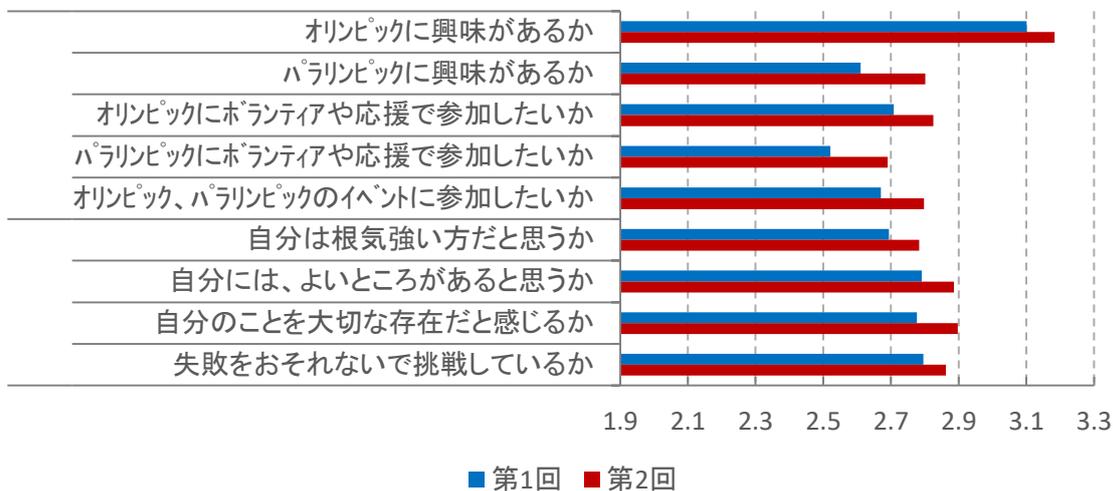
兵庫県



高知県



長崎県



🌈 オリンピック・パラリンピック教育全国フォーラム

「オリンピック・パラリンピックから学ぶものーアスリートの経験に学ぶ、共に生きる未来ー」をテーマに、オリンピック・パラリンピック教育について地域住民などに広く知らせるとともに、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成を図ることを目的として開催した。以下に全国フォーラムの概要について報告する。

○開催概要

日 時：平成30年2月10日（土）14時00分～16時30分

会 場：日本体育大学東京・世田谷キャンパス記念講堂

参 加 者：248名

プログラム：

14：00 開会挨拶

笠井里津子（日本体育大学 副学長）

14：05 講演Ⅰ「超攻撃型 水球日本代表ーポセイドンジャパンの挑戦」

大本洋嗣（日本体育大学 教授）

14：35 講演Ⅱ「失敗の先に～新体操を通して学んだこと～」

村田由香里（日本体育大学 助教）

15：05 休憩

15：15 講演Ⅲ「パラリンピックから学んだ I'mPOSSIBLE（アイムポッシブル）の精神」

マセソン美季（日本財団パラリンピックサポートセンター）

16：05 地域拠点の取り組み紹介

佐藤洋（日本体育大学 特別研究員）

16：20 閉会挨拶

関根正美（日本体育大学 教授）

○内容

<講演Ⅰ>

水球競技の紹介とともに、競技スポーツの存在意義について、必ず挫折することが成長過程において貴重な経験になると話した。自身の水球日本代表監督としてのキャリアと日本水球界の悲願であるオリンピック出場に至るまでの経緯を、映像を用いて紹介し、グッドルーザーを追求していき、負けに向き合うことで負けを恐れなくなったという話も紹介した。最後に、水球競技の今後について、水中の格闘技からの脱却を図るためにルールを守ることなどの大切さを説明し、「フェアプレイなきスポーツに発展はない」と結んだ。

<講演Ⅱ>

新体操競技について映像を用いながら紹介し、新体操を通して「努力することを習慣にすること」「失敗することは恥ずかしいことではない」ということを学んだと話した。誰にでもある挫折については、「挫折ではなく、飛躍のための分岐点に変える」という考え方で乗り越えられたとことを伝えた。新体操を通して学んだ「弱い自分、他者を認める勇気」は、失敗は不安になる要素ではなく自信をつけるための鍵であると話し、熱中して何かに打ち込んでいることから、何かを感じて、学んで、自分に生かせるかということが大切だと結んだ。

<講演Ⅲ>

「失ったものを数えるな。残されたものを最大限にいかせ」という言葉や、2014年パラリンピックソチ大会閉会式の映像を紹介し、「Impossible (不可能)」の文字にアポストロフィを加えて「I'm possible (私には、なんでもできる)」になるという考え方を説明した。不可能だと思えたことも、見方や考え方を変えたり工夫したりすれば、なんでもできるようになると話し、このような視点に基づくパラリンピック教育は、共生社会の構築を目指していることを説明した。また、パラリンピックのシンボルマークであるスリーアギトスの意味を紹介し、「障害者がパラリンピックでのみ輝くのではなく、社会の中でも輝けるように」と話した。



開会挨拶 笠井氏



会場に掲示した
1964年東京オリンピックのポスター



大本氏



村田氏



マセソン氏

<地域拠点の取り組み紹介>

全国中核拠点として連携した7地域拠点の取り組みについて報告した。

【千葉県】教員及び指導主事向けそれぞれの研修の実践を重視し、成果として、自主的な授業展開案の作成につながることや、県の教員研修企画への反映が期待できるという点を挙げた。

【長崎県】事業終了後もオリンピック・パラリンピック教育を継続して実施できる人材の確保をねらい、本学教員を講師とした事前研修と、推進校の中学校・高等学校へ各5回の派遣が実施された。次年度も継続して推進校への派遣を予定している。

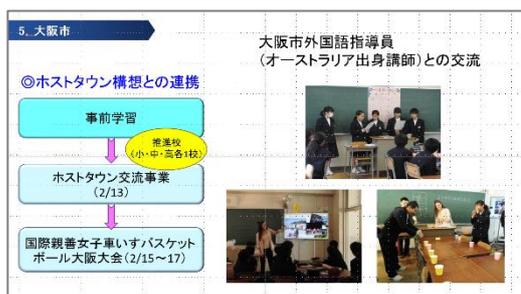
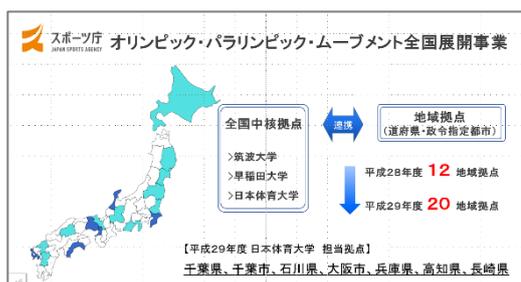
【千葉市】体育・保健体育でのパラスポーツ実施に向けた指導方法が検討され、教員向け実技研修及びモデル校で実践が行われた。今後はモデル校での実践を踏まえた指導資料を作成し、全市立学校への配布を予定している。

【高知県】ゲストティーチャーの授業をイベントとして終わらせないために、学校の実情や授業の内容についてゲストティーチャーと一緒に考えるプロセスを十分に設け、事前事後学習を含めた継続的な学習となるように授業が実施された。

【大阪市】ホストタウン相手国であるオーストラリア出身の外国語指導員を迎えた事前学習や、国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会に出場するオーストラリアチームとの交流会など、ホストタウン構想と関連した取り組みが実施された。

【兵庫県】シッティングバレーボールの授業が実施された。全員がボールに触る工夫などを生徒が主体的に考える時間を設けることにより、クラス全員で取り組むことを促すことができ、生徒同士のコミュニケーション意識の向上が見られた。

【石川県】「全員が自己ベスト」をテーマとした持久走の学習やマラソン大会の他、特別支援学校との交流、オリンピック・パラリンピック競技新聞の作成、マスコット投票など、体育や総合的な学習の時間以外にも道徳や音楽など様々な教科で実施された。



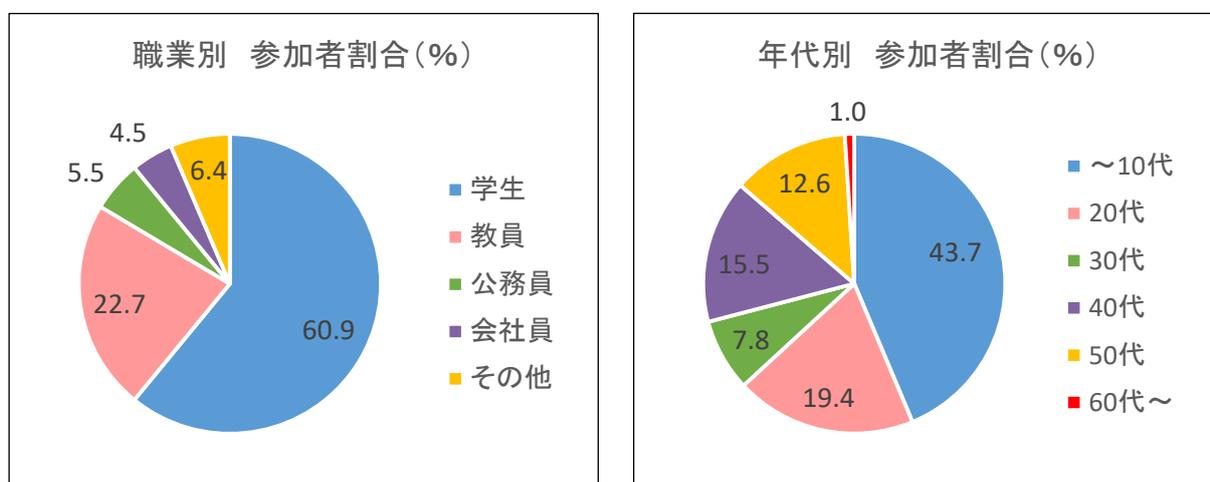
閉会挨拶 関根氏

取り組み紹介にて使用したスライド

○全国フォーラムアンケート集計結果

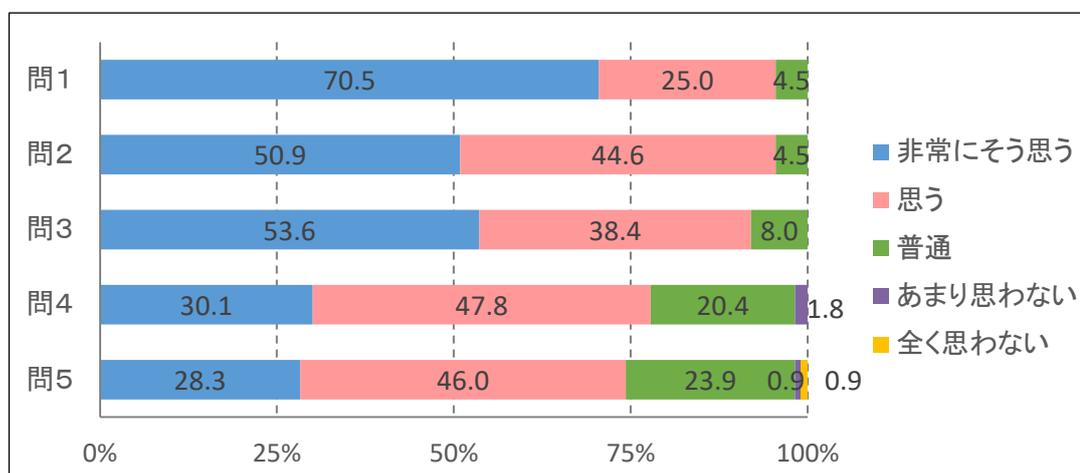
質問紙（巻末資料）は113名分回収でき、回収率は45.6%であった。参加者は学生が6割、教員が2割を占め、問1「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会への興味や関心が増した」、問2「オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの理解が深まった」に対して、「非常にそう思う」「思う」の肯定的な解答が9割を占めたという結果から、オリンピック・パラリンピック教育について広く知らせることができたフォーラムとなった。今回いただいた意見・要望等は次年度のフォーラムに反映させ、全国各地でのオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの推進に努める。

【参加者割合】



【設問】

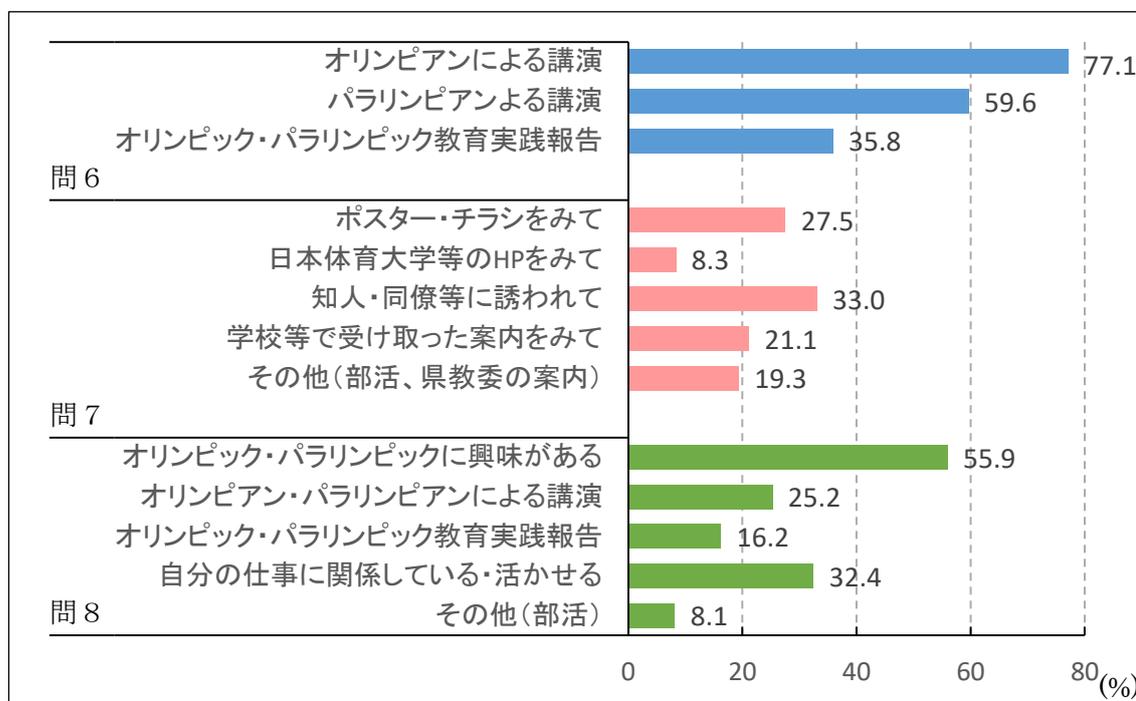
- 問1 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会への興味や関心が増した。
- 問2 オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの理解が深まった。
- 問3 本日のフォーラムの開催会場は適切であった。
- 問4 本日のフォーラムの開催日程（2月）は適切であった。
- 問5 本日のフォーラムの開催時間（14：00～16：30）は適切であった。



問6 本日のフォーラムで、興味や関心をお持ちになったのはどの内容ですか。(複数回答可)

問7 本日のフォーラムをどこで知りましたか。(複数回答可)

問8 本日のフォーラムに参加しようと思ったきっかけを教えてください。(複数回答可)



【意見・要望、今後取り上げて欲しいテーマ】

- ・今回のフォーラムで改めてスポーツの素晴らしさ、楽しさ、スポーツの持つ力を感じた。オリンピック・パラリンピック教育は、日本人の人格形成において、すごい力を発揮すると思っている。今後も全国へ発信してほしいと願っている。
＜50代・教員＞
- ・自分が行っている競技はオリンピック種目にないため、オリンピックという響きをあまり近くに感じたことはなかったが、今回の講演を聞き、トップアスリートとしての心構えや、スポーツの楽しさ、スポーツで上を目指している人の考え、これからの自分に必要なこと、今までの自分に足りなかったことを改めて学ばせていただいた。“挑戦”し続ける心を忘れず、自分もスポーツをしている人として取り組んでいきたい。＜10代・学生＞
- ・パラリンピックや障害を持つ人の意見を聞くことがあまりできないため、どうすればもっと関わることが出来るのか教えて欲しい。＜10代・学生＞
- ・東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方の具体的な例、方法が知りたい。一大学生として関わってみたいと思っている。＜10代・学生＞

✚ その他の取り組み

1. オリンピック・パラリンピック理念

<オリンピック憲章説明資料の作成>

本事業では、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」としてオリンピック・パラリンピックに関する知識についての学びを丁寧扱うこと、またオリンピック精神やパラリンピックの意義など伝えることを重視している。

今年度の取り組みでは、オリンピック憲章にフォーカスした説明資料を作成した。この資料は、小学校高学年の授業で使用できるように作成し、教員が児童に説明するための資料から構成した【教員用】、パワーポイントの使用を標準とするが、使用ができない場合を想定してプリント配布が可能な「児童用スライド資料」の【児童用】で構成した。本資料の使用を希望する学校には、データにて送付する。

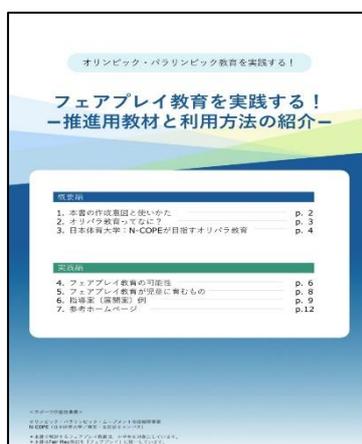


2. フェアプレイ

<フェアプレイ教育推進用教材の作成>

本事業では、「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」としてスポーツの価値の取り扱いを重視している。とりわけフェアプレイの精神ではスポーツ・インテグリティとの関連を軸に、クリーンでフェアなスポーツを推進することを目指した。

今年度の取り組みでは、小学生向けの授業展開を可能にする教材がほとんど見られないことから、小学生を対象としてフェアプレイ理解を促す視点に焦点を置いて教材を作成した。この教材は、各関係機関や団体が発信する出版物や取り組み例を参考としながら既存の教材も活用できるように指導案例を示しており、汎用性のあるフェアプレイ教育が展開できるように構成した。なお、本教材は本事業ホームページ上で公開した。



3. パラリンピック教育

<教員向け映像教材の作成>

平成28年度から協力関係にある日本財団パラリンピックサポートセンターと連携しながら、IPC公認パラリンピック教育教材 I'm POSSIBLE 日本版を活用した学校におけるパラリンピック教育を推進するためのツールとして、教員向けの映像教材の作成を行った。共生社会の実現に向けて貢献できる人材を育成することを目指した継続的なパラリンピック教育を、学校現場で展開しやすくすることを目的とした。

○概要

年度当初に、IPC公認パラリンピック教育教材 I'm POSSIBLE 日本版事務局である日本財団パラリンピックサポートセンター、日本パラリンピック委員会、ベネッセこども基金、本学が一堂に会して打合せを行い、IPC公認パラリンピック教育教材 I'm POSSIBLE を活用して行われるパラリンピック教育は、単にパラリンピックスポーツそのものについて学習することにとどまらず、共生社会の実現に向けて貢献できる人材を育成するために行われるものであることを確認した。そのためには、小学校での総合的な学習の時間を使って継続的に進めることが効果的であろうとの合意を得たので、それを受けてその実現に向けた具体的な方法の検討を行った。

まず、小学校での総合的な学習の時間を使った、最低でも10～15時間程度の継続的な学習が行われることが必要であろうというアウトラインを確認した。その上で、教員ができるだけ時間をかけずに興味を持って準備できるよう、空き時間に気軽に見ることができ、10～15時間の継続的な授業のイメージが湧きやすくなるような教員向けの映像教材を作成することとした。実際の授業を継続的に撮影・記録し、それを5分程度に見やすく編集した形で提供することにした。

実際の授業を撮影するにあたり、東京都のオリンピック・パラリンピック教育アワード校の中から、総合的な学習の時間に熱意のある学校に協力を依頼した。撮影にあたり担任から保護者へ協力依頼を行い、同意を得た。また、東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会メンバーにご協力をいただき、授業者や協力校校長とのディスカッションにおいて意見・提案を共有して指導案の改善や本編の編集に取り組んだ。

○結果

全17時間の総合的な学習の時間での授業展開を記録し、教員が空き時間に見やすい5分程度の映像教材を作成した。また、全体の流れをわかりやすく示すものとして指導案も併せて提示した。さらに、共生社会の実現に貢献できる人材を育成することを目指した継続的なパラリンピック教育の全体像を伝えるための映像を「ガイド編」として作成し、本編と併せて本事業ホームページ上で公開した。

.....

撮影協力：新宿区立西新宿小学校4年1組

撮影期間：平成30年1月11日（木）～平成30年3月15日（木）

4. 国際相互理解教育

内閣官房東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部事務局が展開している「ホストタウン」構想では、2018年2月28日現在、218件がホストタウンとして登録されている。オリンピック・パラリンピック教育を通して国際相互理解を深める教育を展開していくためには、ホストタウンとの関連を視野に入れたプログラムが有効であると考えられる。そのため、事前キャンプ地の誘致も絡めた情報の収集や整理、共有や活用を進めた。

地域セミナーや地域ワークショップ、全国フォーラムなどの情報発信の場では、地域拠点のホストタウン相手国・地域の情報やホストタウンと関連した取り組み事例について、他地域拠点での取り組みの参考となるよう積極的に発信した。

資料

1. オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート調査
調査用紙

オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート（第1回）

注意 HBのえんぴつで よいマーク わるいマーク
ぬってください。

① 性別と学年について、あてはまる番号にマークをしてください。

1. 性別： 男性 女性

2. 学年：

<input type="radio"/> 小学4年生	<input type="radio"/> 小学5年生	<input type="radio"/> 小学6年生
<input type="radio"/> 中学1年生	<input type="radio"/> 中学2年生	<input type="radio"/> 中学3年生
<input type="radio"/> 高校1年生	<input type="radio"/> 高校2年生	<input type="radio"/> 高校3年生

② オリンピックとパラリンピックについて、あてはまる番号にマークをしてください。

	興味がある 4	興味がある 3	興味がない 2	興味がない 1
--	------------	------------	------------	------------

ア. オリンピックに興味がありますか。 (4) (3) (2) (1)

イ. パラリンピックに興味がありますか。 (4) (3) (2) (1)

ウ. 将来、オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。 (4) (3) (2) (1)

エ. 将来、パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。 (4) (3) (2) (1)

オ. 今後行われるオリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと思いませんか。 (4) (3) (2) (1)

③ あなた自身のことについて、あてはまる番号にマークをしてください。

	とても思う 4	思う 3	あまり思わない 2	思わない 1
--	------------	---------	--------------	-----------

ア. 自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思いますか。 (4) (3) (2) (1)

イ. 自分には、よいところがあると思いませんか。 (4) (3) (2) (1)

ウ. 自分を大切な存在だと感じていますか。 (4) (3) (2) (1)

エ. 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。 (4) (3) (2) (1)

◎ ご協力ありがとうございました ◎

KI12914C 135kg

2. 全国フォーラム

(1) ポスター・チラシ

スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
日本体育大学 全国フォーラム

オリンピック・パラリンピックから 学ぶもの

—アスリートの経験に学ぶ、
共に生きる未来—

2018年 **2月10日** 土
14:00 ~ 16:30 (開場 13:30)

日本体育大学
東京・世田谷キャンパス 記念講堂
東京都世田谷区深沢7-1-1

プログラム

講演Ⅰ「超攻撃型 水球日本代表—ポセイドンジャパンの挑戦」
大本 洋嗣 日本体育大学 教授
リオオリンピック 水球男子監督

講演Ⅱ「失敗の先に～新体操を通して学んだこと～」
村田 由香里 日本体育大学 助教
シドニー、アテネオリンピック 新体操日本代表

講演Ⅲ「パラリンピックから学んだI'mPOSSIBLE(アイムポッシブル)の精神」
マセソン 美季 日本財団パラリンピックサポートセンター
長野パラリンピック アイススレッジスピードレース 金メダリスト

実践報告
平成29年度オリンピック・パラリンピック教育

※フォーラム終了後、懇親会を開催します。
世田谷キャンパス内「Nレストラン」(参加無料)

参加方法

参加ご希望の方はインターネット申し込みフォームより、
お申し込みください。参加無料。

パソコンから
<https://goo.gl/forms/0GsDHu1Z94jvY1ol1>

締め切り **2018年2月7日** 水



お問い合わせ

日本体育大学
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業
〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1
TEL 03-5706-0923
MAIL n-cope@nittai.ac.jp
担当: 島山 (Hatakeyama)

主催 日本体育大学 スポーツ庁



NSSU
Nippon Sport Science University



N-COPE



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

(2) 全国フォーラムアンケート用紙

平成 29 年度スポーツ庁委託事業
「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
日本体育大学 全国フォーラム

オリンピック・パラリンピックから学ぶもの
—アスリートの経験に学ぶ、共に生きる未来—



本日は、ご参加いただき誠にありがとうございました。今後のオリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の、より一層の充実と向上のため、ご意見・ご感想をお聞かせください。

以下の項目について最もあてはまると思う番号に○をつけてご回答ください。

1. 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会への興味や関心が増した。
1. 非常にそう思う 2. 思う 3. 普通 4. あまり思わない 5. 全く思わない
2. オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの理解が深まった。
1. 非常にそう思う 2. 思う 3. 普通 4. あまり思わない 5. 全く思わない
3. 本日のフォーラムの開催会場は適切であった。
1. 非常にそう思う 2. 思う 3. 普通 4. あまり思わない 5. 全く思わない
4. 本日のフォーラムの開催日程（2 月）は適切であった。
1. 非常にそう思う 2. 思う 3. 普通 4. あまり思わない 5. 全く思わない
5. 本日のフォーラムの開催時間（14：00～16：30）は適切であった。
1. 非常にそう思う 2. 思う 3. 普通 4. あまり思わない 5. 全く思わない
6. 本日のフォーラムで、興味や関心をお持ちになったのはどの内容ですか。（複数回答可）
1. オリンピアンによる講演 2. パラリンピアンによる講演
3. オリンピック・パラリンピック教育実践報告
7. 本日のフォーラムをどこで知りましたか。（複数回答可）
1. ポスター・チラシをみて 2. 日本体育大学等のホームページをみて
3. 知人・同僚等に誘われて 4. 学校等で受け取った案内をみて
5. その他（具体的に _____）
8. 本日のフォーラムに参加しようと思ったきっかけを教えてください。（複数回答可）
1. オリンピック・パラリンピックに興味がある 2. オリンピアン・パラリンピアンによる講演
3. オリンピック・パラリンピック教育実践報告 4. 自分の仕事に関係している・活かせる
5. その他（具体的に _____）

本日のフォーラムに対するご意見・ご要望、今後取り上げて欲しいテーマなど下記にご記入下さい。

※差し支えない範囲で下記項目について、あてはまる番号に○をつけてご回答ください。

- 職業 1. 会社員 2. 公務員 3. 教員 4. 学生 5. その他（ _____ ）
年齢 1. ～10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代～

ご協力ありがとうございました。

おわりに：今後に向けて

本事業では今年度、千葉県、千葉市、石川県、大阪市、兵庫県、高知県、長崎県との連携のもとに、オリンピズム、パラリンピックの理念に基づきながらオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを展開して参りました。今年度は学校教育現場でどのように展開するかという課題を抱えながら事業展開を行いました。

今年度は昨年度の課題であった「オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの根本的な理念にどれだけ迫れるか」を引き継ぎながら事業を進めてきました。それに対しわれわれは、講演や体験講座がその場限りのものになるのではなく、それらの体験を契機として、オリンピック・パラリンピックが目指す理念をどのように教育現場で展開し、遺産として残していくことができるかという観点から、特別研究員を中心にオリンピック・パラリンピック教育の内容を研究してきました。その成果をフェアプレイやパラリンピックに関する教材開発として、各地域拠点での事業推進に生かすことに務めました。この点を全国フォーラム開催も含め、今年度の成果としたいと思います。

最後になりましたが、昨年引き続き連携していただいた石川県、高知県、長崎県、そして今年度から新たに連携いただいた千葉県、千葉市、兵庫県、大阪市の教育委員会をはじめとする関係者の皆様、各推進校の皆様、講演や講座をお引き受け下さったオリンピック、パラリンピアンの皆様、大学、関係諸団体の皆様には本年度もご協力いただき、ありがとうございました。本事業担当者を代表してお礼申し上げます。今年度の成果が少しでも社会に対する貢献になることを願って結びといたします。

平成30年3月

スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
日本体育大学実施担当責任者 教授 関根正美

事業実施体制

- 事業統括 具志堅 幸司 (学長)
- 事業副統括 松井 幸嗣 (副学長・体育学部長兼務)
- 笠井 里津子 (副学長)
- 実施担当責任者 関根 正美 (教授・オリンピックスポーツ文化研究所長)
- 実施担当者 石井 隆憲 (教授・大学院研究科長)
- 白旗 和也 (教授・スポーツプロモーション・オフィスディレクター)
- 野井 真吾 (教授・総合スポーツ科学研究センター長)

●オリンピックスポーツ文化研究所員

- 萩 浩三 (教授)
- 近藤 智靖 (教授)
- 後藤 彰 (教授)
- 須永 美歌子 (教授)
- 津田 博子 (教授)
- 成田 和穂 (教授)
- 依田 充代 (教授)
- 亀山 有希 (准教授)
- 齋藤 雅英 (准教授)
- 佐野 昌行 (准教授)
- 波多腰 克晃 (准教授)
- 日比野 幹生 (准教授)
- 仲間 若菜 (助教)
- 神田 俊平 (助教)

●パラリンピック教育担当

- 野村 一路 (教授)
- 田中 信行 (教授)
- 水野 洋子 (陸上競技部アスリート部門監督)

●教科教育担当

- 府川 源一郎 (教授)
- 奥泉 香 (教授)
- 金本 良通 (教授)
- 島田 功 (教授)
- 角屋 重樹 (教授)
- 猪瀬 武則 (教授)

●日本体育大学オリンピックズクラブメンバー

- 事務局長 藤野 雅博
- 企画部長 勝田 真也
- 事業推進スタッフ 秋和 真澄 (特別研究員)
- 石川 直 (特別研究員)
- 佐藤 洋 (特別研究員)
- 祖山 桜 (特別研究員)
- 業務管理 総合スポーツ科学研究センター
- 経理管理 管理部会計課

平成29年度スポーツ庁委託事業

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」報告書

平成30年3月31日

発行：日本体育大学「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

東京都世田谷区深沢7-1-1

TEL：03-5706-0923

FAX：03-5709-0961

ウェブサイト：<http://www.nittai.ac.jp/ncope/index.html>
